

2017年 6月25日(日曜日) 午後1時30分 書齋カフェ

初座1時間/後座(懇親会)1時間 会費500円(入館料を含む)

■本日のcoffee いつもの銘柄

■本日の茶菓子 続・美術の終末、芸術の終末

■茶菓子提供者 三頭谷鷹史(美術評論家)

美術の 続 終末 芸術の

■茶菓子解説

2000年以降、美術ジャンル衰退と逆比例するかのようになり、アートイベントが躍進し、美術界のなかで重要な位置を占めるようになった。こうしたアートイベントについての私の見解は「〈あいちアートの森〉私見」に詳しく書いたもので、そちらを参照してもらった方がよいだろう。7年余り前に書いたものだが、事実上の美術終末論であり、基本的な考え方、現状分析、予想など、今でもほとんど修正する必要がないと思っている(注6)。ただ、その後「あいちトリエンナーレ」が始まった。官製アートイベントの典型であり、その点でたいへん興味深いので、少しばかり検証してみようと思う。

なお、イベント化は、美術ジャンルだけに起きている現象ではない。のちに触れるとおり、クラシック音楽では「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」があり、教育では「愛知サマーセミナー」がある。いずれも数日という短期間に膨大な人が参加する大イベントである。他の分野にも同様なイベントがあると推測されるが、まずはこの2つのイベントを見ておこう。

全文は紀要『美術の終末、芸術の終末 ②』へ⇒

三頭谷鷹史 略歴

1947年愛知県犬山市生まれ。同志社大学卒。美術評論家連盟会員、名古屋造形大学名誉教授。1970年代は美術、写真、演劇、パフォーマンスなどのジャンル横断的な表現活動をおこなった。80年代以降は美術批評を中心に活動し、90年代以降はいけばな批評も手掛ける。著書に『前衛いけばなの時代』(美学出版)、『宿命の画天使たち 山下清・沼祐一・他』(美学出版)。共著に『日本美術全集 第17巻』(小学館)、『日本の20世紀芸術』(平凡社)、『美術の日本近現代史』(東京美術)などがある。

写真・三頭谷鷹史パフォーマンス「ニワトリと国旗に関する祭り」1972年より

連絡先：三頭谷鷹史(珈琲茶会亭主) 電話 090-5857-6585
主催：岩田洗心館 愛知県犬山市大字犬山字富士見町26 電話 0583-61-4634